

平成30年度 須坂高等学校 学校評価表 (部署別)

領域	対象	今年度の具体的目標 (評価項目)	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	教育課程	1 生徒の進路希望に、より対応した教育課程になるよう研究をすすめる。	・生徒の進路希望を実現できる科目配置ができたか。	・昨年度刷新された教育課程の成果を確かめる年度となった。多少の歪は感じられたが、概ね好感されているようである。来年度も引き続きその成果を観察する必要がある。 特に、次年度から始まる課題研究については重点的に観察したい。	A	進路希望と教育課程について、生徒にアンケートを実施するののひとつの方法がもしれない。
		2 大学入試改革と新学習指導要領を見すえた授業時間や科目の配置について、昨年度の変更事項を検証する。	・平成31年度入学生用の教育課程編成にあたって、大学入試改革と新学習指導要領を意識しておこなうことができたか。	・まだ実施されていない課題研究についての職員の意識が不透明な部分もあった。	A	大学入試の動向を注意深く観察していくことが欠かせない。また、大学入試対策を前提にした教育課程の検討会を持ちたい。
		3 「主体的・協働的・深い学び」のあり方について、教育課程の面から検討していく。	・教職員の意識を喚起していくことができたか。		B	課題研究の進展につれて、新たに生じてくるであろう問題点を確認していきたい。
教育活動	学習支援・探究	1 主体的な学習姿勢、および継続的計画的な学習習慣の確立を図る。	・年度当初に配付できるように『学習の手引き』を作成し、生徒に説明することができたか。 ・学習合宿やオリエンテーション等とおして家庭学習の習慣を確立させる指導ができたか。 ・次年度開講する「探求」への下地となるような準備はできたか。	・『学習の手引き』を予定通り、年度当初に生徒に配布できた。 ・家庭学習習慣の確立がより充実したものとなるよう、今後方策の検討が必要となる。 ・職員研修も年二回行い、準備を進めることができた。	B	・生徒や教員に利用しやすいものとなるよう今後も検討していく。 ・家庭学習の動機づけ、習慣作りに向けて取り組まなければならない。 ・今後も継続・発展させていく。
		2 放課後や土曜日の自主学習支援の充実を図る。	・自主学習を支援するための学習環境の整備ができたか。	・自宅学習時間確保の観点から、自習室と自習室当番のあり方について検討することができた。 ・土曜講座後に自習室を解放するなど、土曜日の自主学習も支援することができた。	A	・1、2年生にも利用しやすい自習室のあり方を検討する必要がある。
		3 教科指導力の向上を図る。	・公開授業や授業研究会を有効に活用することができたか。 ・主体的、対話的に学ぶ授業の工夫をうながすことができたか。 ・授業アンケート、生活実態調査の結果を踏まえ授業の向上へとつながる材料を提供できたか。また、生徒自らの学習への取り組み方を見直す契機とすることができたか。	・公開授業に合わせて、教員間の授業公開を呼びかけた。 ・プロジェクターなどのICT活用など多面的な授業の工夫が見られた。 ・授業アンケートの結果を受けて、生徒の学習状況の把握・分析が必要だった。	B	・教員間で普段から授業を公開し合い、自身の授業改善に活かしていく環境作りを検討していきたい。 ・主体的な取り組みや創造的な思考力を身に付けるための授業改善をさらに進めていく必要がある。 ・授業アンケートの検証をしっかりと行い、生徒にフィードバックする方法を検討していきたい。
教育活動		1 国公立大学を中心とする生徒の希望進路の実現に向け、適切な指導を行う。	・センター試験(5-7型、900点)に多くの生徒が参加したか。 ・希望進路実現に向けての指導は適切であったか。	・センター試験出願率は98.3%で例年並みの出願率の高さであった。また多くの生徒が希望している国公立大学受験の基本となる5-7(900点)出願率は76.6%であり、この数字は例年より低い数字ではあるが、生徒一人ひとりの進路希望に合わせた進路支援の結果と思われる。国公立大学推薦入試合格者数を飛躍的に伸ばした。	A	・増加が予想される推薦入試の指導をさらに充実させる。 ・早めから個別試験へ取り組むことができるように支援する。
		2 大学入学共通テストに関する情報収集と職員・生徒・保護者への情報提供および校内の支援体制の構築を図る。	・情報収集・情報提供は適切であったか。 ・適切な支援体制を作ることができたか。	・1月8日に「教育入試改革を見据えた低学年指導研究会」の職員研修会をベネッセより講師を招き実施し、大学入試改革の進捗状況について職員で情報の共有をはかることができた。 ・1学年ではPTA総会時にベネッセ講師より新大学入試について講演してもらったが、保護者には好評であった。	A	・2020年に始まる新しい大学入試に備えて、具体的な支援体制を考える。
		3 進路係より発行する冊子『進路選択の手引き』『合格体験記』等を有効活用する。	・HRや教科での活用が進んだか。 ・学習記録や計画作成のために有効に活用できたか。	・冊子に関しHRを中心に有効活用できている。先輩たちの合格体験談を自分の受験勉強などのモチベーションにしている。 ・テスト前を中心に自宅学習記録を活用することはもう一歩である。	B	・次年度も充実した冊子を作成し、その利用の仕方について検討していく。 ・大学入学共通テストに向けて、内容を充実させるため引き継ぎを適切に行う。
		4 中学校・大学との連携を図る。	・中学校との連携を深め、情報を発信することができたか。 ・大学見学や模擬講義を通じて大学との連携を深めることができたか。 ・信州大学工学部との連携講座を充実したものにすることができたか。	・学校説明会では本校の進路方針・学習の状況が出席者に伝えることができた。 ・1、2年生希望者が信州大学工学部連携講座のサマーインターシップに参加し、それぞれの進路について考えるよい機会となった。3月には1年生全員と2年生の希望者を対象に信州大学工学部連携講座2回目として遠藤教授特別講演会を実施する。	A	・次年度も学年・進路を中心に、大学関連の進路に関わる行事を継続・充実させていきたい。
		5 検討会・研修会の充実を図る。	・模試検討会、3年進路検討会や進路研修会を通して職員の共通理解が進み、生徒への指導に生かされたか。	・スタディサポート検討会を各学年で実施し、生徒の実態把握と今後の指導計画に役立てている。 ・3年進路検討会や出願検討会を開くことにより、個々の生徒の進路希望実現に向けて職員間での意識の統一をはかることができています。今年度の出願検討会でも全員パソコンを持参し効率的に会を進めることができた。	A	・今年度同様に職員研修会・各学年スタディサポート検討会を計画していくとともに、模試結果の分析を深めていきたい。 ・スタディサポート活用法については、より実のあるものとするために検討をすすめていく。 ・生徒の志望をふまえつつ、来年度も今年度同様に進路検討会や出願検討会を計画する。

<p>進路支援</p>	<p>6 大学見学会等への参加を指導する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの生徒が大学見学会等に参加したか。 ・生徒が大学の情報を得たか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学年全員が7月14日に東京開催の夢ナビライブに参加した。生徒にとって志望校や志望学部について知識を得るよい機会となった。またこの参加を通してオープンキャンパスへの参加意欲が高まる生徒が見られた。 ・1年生は信州大学各学部を中心とした大学見学を実施した。 ・大学情報については、大学見学だけではなく、係や担任を中心に参加した各種検討会などの情報を元に学校側から情報提供を行っている。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も生徒にとって進路を考えるよい機会となるように企画していきたい。 ・係や担任を中心に各種検討会や本校訪問の大学から得た情報を生徒にしっかりと還元していきたい。
<p>7 学習意識の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習オリエンテーション、学習合宿等において、学習に主体的に取り組む姿勢を喚起することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習合宿の代わりに、1年生では一年を通して学力補充補習を実施した。2年生については早朝に英国の補習を実施した。 ・各学年の進路通信や集会等を通じて、学習意識の向上をはかった。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入学直後の学習へのモチベーションを高めていくために、4月の学習オリエンテーションと授業のサイクルの効率化を図る。 ・2年生においては、探究活動と連携をとりながらよりアカデミックな刺激を与えられるように支援工夫する。 ・進路通信、進路講話などを適切な時期に支援し学習刺激を効率的に提供したい。
<p>8 土曜講座・夏期講座・学習合宿・特編授業等の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が熱心に参加できたか。 ・各学年とも生徒の志望や関心に応える内容であったか。 ・指導の時期は適切であったか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生の夏期講座は参加率が高く、多くの生徒が熱心に取り組んでいた。 ・土曜講座として1学年ではクリスマスレクチャーを実施した。教員が講師となり様々な分野の講義を行ったが、生徒にはとても好評であった。 ・3学年のセンター試験に向けての特編授業については時期、内容とも適切であったと思われる。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の養成や受験学力の向上などを適切に支援できる講座が運営計画できるよう学習支援と連携する。 ・センター試験や個別試験に向けた特編授業をより充実させる。
<p>9 進路指導用教材を有効に活用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サテライト授業が計画的かつ効果的に活用されたか。 ・進路指導書籍は有効に活用されたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに国数のサテライト授業を今年度も実施した。生徒の評価は概ね好評であった。 ・赤本については個人購入をすすめ、意識の向上に役立った。また、大学を厳選し購入もした。進路書籍の貸し出し利用も多い。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休業中の学習が充実したものとなるよう、内容を検討し有効活用を図る。 ・進路書籍の選定など生徒のニーズや大学入学共通テストに対応させていく。
<p>10 キャリア教育の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『四阿おろし』の活用やキャリアデー、大学・企業見学を通じ、職業観の向上が図れたか。 ・職業体験により多くの生徒が参加したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『四阿おろし』については多くの保護者の方々のご協力を得て発行することができたが、生徒の職業観の向上につながった。 ・1学年ではキャリア教育のさらなる充実を図り、夏休みを利用して生徒それぞれが就労体験を計画し参加した。 ・複数回の看護師体験を計画し、延べ30名ほど参加した。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・就労体験については来年度も継続していく。 ・看護師、医師、薬剤師体験など地域の医療機関と連携を密にとっていく。 ・探究学習との連携を図る。
<p>教育活動</p>	<p>1 自律的な生活習慣の確立を図り、自己指導能力(主体性)を育成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を確立させることができたか。 ・私物や貴重品の管理を徹底させることができたか。 ・情報モラルに関する意識を高めることができたか。 ・交通安全の意識を高めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○遅刻指導(6月6・7・8日、10月22・23・24日)を生徒昇降口で行ったが、限られた生徒の数の遅刻が見られた。 ○生徒の貴重品や私物の管理が不十分で紛失する生徒が多い。 ○インターネット安全講話(1年)、人権講話(全校)などを行い、生活指導通信などで生徒だけでなく保護者にも情報モラルについて注意を呼びかけた。 ○交通安全街頭指導(春 4月16・17・18日、秋 10月10・11・12日)、自転車安全講習会(1学年 4月12・13日 自動車学校)等を行い、交通安全の注意喚起をした。自転車交通事故は6件の報告があったが、主に自転車乗車中に自動車との接触事故で不注意による事故が多い。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○朝のホームルームでの指導も含め、規則正しい学校生活を習慣づけさせたい。 ○貴重品・私物の管理について、また自転車の施錠についても、ホームルーム等を通じて常によびかけていく。 ○インターネット関連の苦情等は無かったが、公にされていない範囲での問題についても考えなければならぬ。 ○交通安全について、特に登下校中の自転車乗車中の不注意による交通事故が多いことを意識させたい。
<p>生徒支援</p>	<p>2 集団生活の中で、自己存在感を認識し、共感的人間関係の確立を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ」などがなく、生徒が安心して学校生活を送れるような支援体制作りができたか。 ・精神的に支援を必要とする生徒に対して、個々の状況に応じて支援することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育コーディネーター及びスクールカウンセラーを配置し、いじめ不登校等対策委員会と連携を図り、生徒の精神的な支援に配慮できる体勢を整えられた。 ○学校生活アンケート(6月、11月)を実施し、生徒の学校生活の実態の把握に努めた。 ○不登校傾向を持つ生徒は一定数存在する。 ○いじめ、ネット上の誹謗中傷などの報告は無かった。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校生活アンケートで得た情報等を含め、特別支援教育コーディネーターを中心とした「特別な事情のある生徒」への対応において、個人情報に配慮した上での「職員間の情報の共有」を、さらに図っていく。 ○引き続き、いじめにつながっていくような事案に対しても慎重に対応していく。
<p>3 職員間で情報を共有し、保護者や地域、関係諸機関との連携を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全般にわたる校内外の情報を生徒支援に生かすことができたか。 ・保護者や関係機関との連携を密にした支援体制を作ることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各校・各団体と協力することができた。 ○入学式やPTA総会等で本校の指導方針を保護者に伝えた。 ○「生活指導通信」を発行し、必要な情報を生徒や保護者に伝え注意を促した。 ○外部からの苦情等については、可能な限り速やかに対応し、生徒にも注意喚起した。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「生活指導便り」のみならず、学校の各部署から発行される様々な通信類も含めて、保護者に確実に届けるために、ホームページの活用等、学校全体の体制について検討していく。

		4 生徒会との連携を図る。	・生徒会、校風委員会等と連携して、上記目標1～3などの実現を図ることができたか。	○スマートフォンの利用について、生徒総会において生徒の手によるルール作りがなされた。係としても生徒の自己指導能力に期待し、支援していきたい。 ○校風委員会による自転車ステッカー・施錠調査をきっかけに、生徒からも数回クラスで呼びかけ、無施錠は減少した。 ○自転車盗難被害は、4件の報告があった。外部から放置自転車の連絡も数件あり、盗難被害にあったものもあった。	A	○スマートフォンの利用、歩行時や自転車乗車中も含めた交通マナーの向上について、生徒会との連携を深めさらに呼びかけていきたい。
教育活動	人権平和	1 基本的人権に対する認識を深め、主権者としての自覚を高めるとともに、他者の人権を尊重する姿勢を育てる。	・人権や平和の問題について積極的に考え、行動する力を伸張する機会や場を設けることができたか。	戦争体験・証言を聞き平和について考えを深める過程で、生命の尊重、戦時下における人権を現在とつなげて考え意識を深めることができた。	A	日常のさまざまな場面をとらえて、命の尊さ・重さ・等しさ、人権への意識を喚起し高めていく必要がある。
		2 自主的・民主的な集団づくり、協働的な仲間づくり、いじめや差別をなくす関係づくりを図る。	・ホームルーム、生徒会活動、クラブ活動などを通じて、集団や仲間について学ぶ機会や体験する場を設けることができたか。	HR活動をベースにクラスマッチなどの学級での諸活動、生徒会活動、クラブ活動を通して、仲間づくり、自主的・民主的な集団づくりに務めた。 文化祭の長期間にわたる準備および当日の活動を通してクラス・学年を超えた仲間づくり、自主的・協力的な時間を体験する中で、協働的な意識や行動につなげていくことができた。	B	人権や命に関わる意識や思考を自己や他者との日常生活や取り組みにどう生かし実践していくかを継続的につなげていきたい。
教育活動	生徒会	1 お互いの意見や立場を尊重し合いながら計画を立案し、その計画の実現を目指すよう支援をする。	・共有している反省を活かした計画が立てられたか。 ・個々の意見を尊重できた話し合いが十分なされたか。	議論の基本的な進め方や各活動のスケジュールを生徒に示しながら支援した。これにより、生徒は個々の意見を尊重しながら議論し、計画性をもって活動することができた。	A	なし
		2 生徒会執行部、各委員会、さらには各部活動が連携し、活動ができるよう生徒間の協働性を向上させる。	・連携を深めるための活動の場が十分に作られたか。 ・生徒会活動を通じて生徒間の協働意識が深められたか。	スマートフォンに関する討議や部室清掃をはじめとするさまざまな活動を支援することによって、生徒個人が主体的に考え、かつ組織の中で協働するという意識と態度を育てることができた。	A	スマートフォンの使用方法については、引き続き対策を検討していく。
		3 地域社会の活動に、生徒が自主的に取り組み、その成果を発信できるように環境を作る。	・須坂市からの要請事業に自主的に協力できたか。 ・自らの活動を地域に向けて発信できたか。	「一クラブ一貢献」の計画を一覧にまとめる形で明文化した。	B	各部と執行部が連携を深めることで、より積極的に地域社会に貢献し、その成果と発信していく必要がある。
教育活動	図書・視聴覚	1. 図書館利用の拡大を図り、読書習慣を定着させる。	・図書館利用が増えたか。	・読書週間の朝の読書や2年生の課題により、貸出数が増加した。 ・1、2年生の授業での利用があり、図書館に足を運ぶ機会となった。	A	・多読の生徒のみならず、より多くの生徒が本を読みたくなる工夫を、生徒図書委員会とともに考えたい。
		2. 教科・授業、小論文に関する資料の充実を図る。	・利用者の要望に応じることができる資料の充実が図れたか。	・3年生が求める面接・小論文関連の本は揃っており、求められる資料は提供できた。 ・購入アンケートや店頭購入により、需要のある図書を充実させた。	A	・図書購入アンケートを参考にし、今後も需要のある図書を揃えたい。 ・探究的な学びに役立つような資料収集に心がけたい。
		3. 快適な環境を整え、更なる施設の利用促進を図る。	・自主学习などにも、多くの生徒が利用したか。	・自主学习で使用する生徒のための図書館環境は一定程度整えられており、3年生を中心とした利用があった。	B	・学校環境衛生基準に照らして、改善が望まれる。 ・閲覧室内の照明、スピーカーなどの老朽化が進んでおり、計画的な更新が必要である。
		4. 視聴覚室及び視聴覚教材の有効活用と各部署との連携を図る。	・利用しやすい環境を整え、視聴覚室が有効に利用されたか。	・プロジェクト・タブレットが設置されており、授業のみならず、課外にも多くの生徒が利用した。	A	・さらなる今後の活用を検討したい。
教育活動	心身	1 心身の健康管理を図る。	1 保健室への来室者への対応が適切であったか。また、関係者や担当部署との連絡・連携ができていたか。	・必要に応じて担任や関係職員・SCと連携をとることができた。	A	・平成30年度はSC重点校に指定され、心身両面からの生徒の状況把握に役立っている。 ・SC利用者は年々増加している。
		2 緊急時、保護者への連絡および医療機関との対応が迅速・適切にできたか。	・緊急時は保護者及び医療機関への連絡が迅速にできるように、関係職員と協力して行っている。	・今後も緊急時には、迅速に対応できるように努める。 ・今年度の職員AED講習会には、3年以上未受講の先生の多くにご参加いただいた。今後も3年に一度のご参加をお願いしたい。		

保健	不		3 学校保健安全法に則り各種健康診断を計画的に実施し、事後指導が適切であったか。	・定期健康診断は計画通り実施し、その結果をもとに必要な生徒には、個別指導を行った。	・平成28年度より導入された運動器検診については、よりよい実施方法を模索している。 ・保護者懇談会を利用したことによって事後指導の効果が上がった。
		2 環境の管理を図る。	1 学校環境衛生検査を適切に行い、その結果を生かしたか。 2 校内の危険箇所、安全に配慮が必要となる箇所の確認改善	・学校環境検査は計画通り実施している。 ・安全衛生委員会と連携して確認した。	B ・継続した取り組みを行っていきたい。 ・特に緊急性が必要な施設・箇所は優先的に予算措置をお願いしていく。
		3 保健指導を充実させる。	1 自身の健康課題に対して、興味関心をもてるような広報活動ができたか。 ・保健委員会等による広報活動 ・保健委員会の活動支援	・保健日より、保健関係の掲示物で広報活動を行っている。 ・昼休みの放送にて感染症予防の呼びかけを行った。	A ・継続して広報活動を行い保健指導の一層の充実を促す。
教育活動	環境美化	校舎内外の環境美化を図る。	清掃が日常的にきちんと行われ、トイレを含む校舎内外がきれいにそして清潔に保たれているかの確認	・月に一度の大掃除と、月に二度の外掃を定期的に行うことができた。 ・環境美化委員会の主導と全校生徒の協力のもと、部室清掃を2度行い、部室周りの環境美化に努めた。	A ・清掃用具点検を引き続き行っていく。
教育活動	P T A	1 P T A活動を通し、学校と保護者及び保護者間の情報交換と親睦が深められるようにする。	・P T Aの諸会合の案内が会員に周知できたか。 ・P T A総会や学年・学級P T Aに多くの保護者が参加したか。	・クラブ活動懇談会、PTA総会の出席率は毎年増加傾向にある。一方、学年学級PTAはやや減少する傾向にある。 ・生徒を通じて保護者への通知文書配付の他、オクレンジャーや役員へのメールも活用することで、周知できたと考える。 ・全職員と一部生徒の協力により開催することができた。特に教務係との連携によって、仕事内容の重複を避けることができ、業務の効率化が図れた。	A ・雨天時の学校外の駐車場確保は早い時期から確保する必要がある。 ・グラウンドを駐車場として利用後、整備のため使用後速やかに移動をお願いしたが、徹底は非常に難しく、工夫が必要と思われた。
		2 P T A研修会が保護者にとって本校生徒の生活や進路指導についての理解と研究を深める機会となるようにする。	・P T A研修会の案内が会員に周知できたか。 ・P T A研修会に多くの保護者が参加したか。 ・P T A研修会の満足度は高かったか。	・全体講演会の参加率は前回28年度よりやや減少したが26年度より増加した。 ・周知については1と同様。 ・全体講演会は熱く語りかける内容で保護者も感銘を受けていた様子だった。また学年別講演会も予備校の講師の要所をおさえた講演で好評であった。	A ・日程として全体講演会、学年別講演会の両立は難しいとの意見もあり、開始時間を早めるなど対策が必要である。 ・グラウンド整備のための速やかな移動については1と同様。
学校運営	教 務	1 学校が円滑に運営されるように努める。	・校内の諸行事が適切に計画・運営されたか。また、生徒・教職員・保護者に対して周知徹底が図られたか。 ・月暦の発行やホームルームを通じた周知、日課に応じたチャイムの設定などにより、生徒・教職員の学校生活が円滑に進むよう努めたか。	・諸行事については、特に問題はなく円滑に運営することができた。 ・日課の周知やチャイムに関しても、大きな問題はなく行うことができた。	A ・係・学年等の各部署と、密な連絡を取り合い、より円滑な運営を心がける。
		2 校内の情報を外部に発信すると共に、個人情報の漏洩に注意を払い、本校への一層の理解を深めてもらう。	・公開授業、体験授業、学校説明会について適切なPRを行い、多くの中学生・保護者の参加が募れたか。 ・ホームページやパンフレットなどによって、本校の活動を外部に向けて広く紹介できたか。また、時期に応じた適切な情報をホームページに掲載できたか。	・体験入学の実施時期については、より中学生が参加しやすい時期を検討し、7月下旬とした。参加者数は中学生353名、保護者72名で昨年より増加した ・係内の体制を整えたことで、本校の行事や日常の様子を高い頻度でホームページに掲載することができた。	A ・体験入学、学校公開は本校の様子を直接見て理解していただく貴重な機会であるので、さらに多くの方に来ていただけるよう広報に努めたい。 ・外部の方の意見も参考にしながら、さらに内容を充実させ見やすいホームページを目指していきたい。
学校運営	情 報 処 理	1 情報処理機器及びネットワーク利用による校務の合理化の推進を図る。	・新校内LANの整備に合わせて、使いやすいフォルダ構成と情報の整理を進めることができたか。 ・アプリケーションソフトや機器の導入・更新を進め、ネットワークの維持管理を適切に行えたか。	・画像ファイルや過年度のファイルを保存する校内用ファイルサーバーを整備し、ネットワークの負荷の低減を図っている。 ・スクールアグリーメントを導入し、ライセンス管理を適切に行えるようにしている。また、プリンタ等機器の更新を進めている。	A ・最新の情報を踏まえつつ、サーバの負荷低減を進めていく。 ・年度末のアクセス権移行等の作業手順を円滑に実施する。 ・ライセンスおよびネットワーク機器の更新を継続していく。
		2 情報処理機器及びネットワークを利用した教育活動の推進を図る。	・授業や各種講演会、研究授業等でネットワークおよび情報機器を活用できたか。 ・学校ホームページについて、各係から依頼された話題を迅速にHPにアップすることができたか。	・各教科の授業でICT機器を有効利用できた。 ・キャリアデー等で情報機器を活用している。 ・係内で毎週掲載内容を確認し、迅速なHP更新に努めた。	B ・来年度から始まる「探究の時間」が円滑に進行するよう、ICT機器を充実させていく必要がある。 ・継続していく。
		3 情報の管理という面で個人情報や著作権に関して職員や生徒へ周知を	・個人情報や著作権保護、セキュリティ確保の大切さを職員と生徒に伝えた	・年度当初に周知を図った。 ・セキュリティを確保しつつ、公	A ・セキュリティの確保と利便性の向上を両立させるように、USB

		図る。	か。	務を円滑に遂行できるよう、USBメモリの設定・配布を行った。	A	メモリの運用方法を今後も検討していく。
学校運営	防 災	1 緊急体制を整備・確立する	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急連絡用としてオクレンジャーの有効な活用ができたか。 ・避難経路が周知されたか。 ・避難訓練が有効に行えたか。 	<p>オクレンジャーはよく活用できた。</p> <p>避難訓練にあたっては生徒も自主的によく動けた。ただ、放送設備の整備には多少問題を残している。</p>	A	放送設備の確認・拡充がさらに必要である。
		2 近年の災害の頻発に鑑み、防災意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・防災についての意識を高めることができたか。 ・使用規定に従い、安全なストーブ使用ができたか。 	<p>災害が多かった年でもあり、生徒も職員も防災意識は高まったようである。</p> <p>ストーブは安全に使用されている。</p>	A	火災に関する意識は常に喚起していきたい。